

## 平成28年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	研究ゼミナールB (Seminar of Study B)	授業コード	P170285
担当教員名	高 文局	科目ナンバリングコード	P31702
配当学年	3	開講期	後期
必修・選択区分	必修	単位数	2
履修上の注意または履修条件	卒業研究に着手するために必要となる基礎知識・スキルを修得する科目です。卒業研究に着手する前に必ず受講してください。		
受講心得	欠席、遅刻を含めた受講態度を評価します。積極的な姿勢で授業に臨んでください。		
教科書	必要に応じて資料を配付します。		
参考文献及び指定図書	必要に応じて資料を配付します。		
関連科目	情報メディアと社会、デジタルコンテンツ論、研究ゼミナールA、卒業研究		

授業の目的	研究ゼミナールは、4年次の卒業研究に着手するための準備を行うことを目的とした科目です。専門教育科目の履修だけでは不足しがちな専門教育を学ぶ上での学習方法・学習態度などを身につけます。さらに、卒業研究に着手する上で必要となる専門領域に関するより高度な知識・技術の習得をめざします。
授業の概要	卒業研究に着手する上で必要となる専門領域に関する教科書を輪読しながら、各自自分が設定したテーマに沿って研究課題を見つけ出し、計画を立てて研究を進めます。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
<b>第1週：ガイダンス</b> 研究ゼミナールBでの目標、卒業研究に向けた計画や取り組みについて説明します。その後、今学期の取り組みの目標を立てます。	活動報告書
<b>第2週：プレゼンテーション①</b> 自分が立てた今学期の取り組みについて発表を行います。また、発表内容についてディスカッションを行います。	実施計画
<b>第3週：教科書の輪読と取り組み①</b> 教科書を輪読しながら、各自の研究計画や取り組み計画に反映させます。	活動報告書
<b>第4週：教科書の輪読と取り組み②</b> 教科書を輪読しながら、各自の研究計画や取り組み計画に反映させます。	活動報告書
<b>第5週：教科書の輪読と取り組み③</b> 教科書を輪読しながら、各自の研究計画や取り組み計画に反映させます。	活動報告書
<b>第6週：教科書の輪読と取り組み④</b> 教科書を輪読しながら、各自の研究計画や取り組み計画に反映させます。	活動報告書
<b>第7週：教科書の輪読と取り組み⑤</b> 教科書を輪読しながら、各自の研究計画や取り組み計画に反映させます。	活動報告書

<b>第8週：教科書の輪読と取り組み⑥</b>		
教科書を輪読しながら、各自の研究計画や取り組み計画に反映させます。		活動報告書
<b>第9週：教科書の輪読と取り組み⑦</b>		
教科書を輪読しながら、各自の研究計画や取り組み計画に反映させます。		活動報告書
<b>第10週：卒業研究 口頭試問①参加</b>		
12月に開催される卒業研究 口頭試問①に参加します。先輩方の取り組みを見ながら、自身の取り組みについて見直します。		活動報告書
<b>第11週：研究室訪問①</b>		
各研究室の訪問を行いながら、各先輩方の卒業研究に触れます。諸先輩方との交流から、様々な学習に取り組みます。必要に応じて専門性やテーマを見直します。		活動報告書
<b>第12週：研究室訪問②</b>		
各研究室の訪問を行いながら、各先輩方の卒業研究に触れます。諸先輩方との交流から、様々な学習に取り組みます。必要に応じて専門性やテーマを見直します。		活動報告書
<b>第13週：教科書の輪読と取り組み⑧</b>		
教科書を輪読しながら、各自の研究計画や取り組み計画に反映させます。		活動報告書
<b>第14週：プレゼンテーション②</b>		
各自取り組んだことについて、発表会を行います。		発表報告
<b>第15週：口頭試問② ポスターセッション</b>		
口頭試問②、ポスターセッションに参加します。先輩方の取り組みから、再度、自身の取り組みについて振り返ります。また諸先輩方との交流から、様々な学習に取り組みます。		活動報告書
<b>第16週：期末試験</b>		
授業の運営方法	(1)授業の形式	「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	該当しない	
備考		

<b>○単位を修得するために達成すべき到達目標</b>	
<b>【関心・意欲・態度】</b>	教科書の担当割り当て部分を予習し、他の学生に説明するための資料を作成する。
<b>【知識・理解】</b>	自分が設定した研究テーマに対する基礎的知識を習得する。
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b>	自分の研究テーマや取り組みについてプレゼンテーションを行う。
<b>【思考・判断・創造】</b>	自分が設定したテーマに沿って研究課題を見つけ出し、計画を立てて研究を進める。

<b>○成績評価基準(合計100点)</b>	合計欄	100点
------------------------	-----	------

到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)
<b>【関心・意欲・態度】</b> ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		20点	5点
<b>【知識・理解】</b> ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。		20点	5点
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b> ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		20点	5点
<b>【思考・判断・創造】</b> ※「考え抜く力」を含む。		20点	5点
<b>(「人間力」について)</b> ※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。			

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	レポートの提出、レポートの記載内容
発表・その他 (無形成果)	課題やワークへの取り組み 卒業研究 中間発表や口頭試問などへの参加